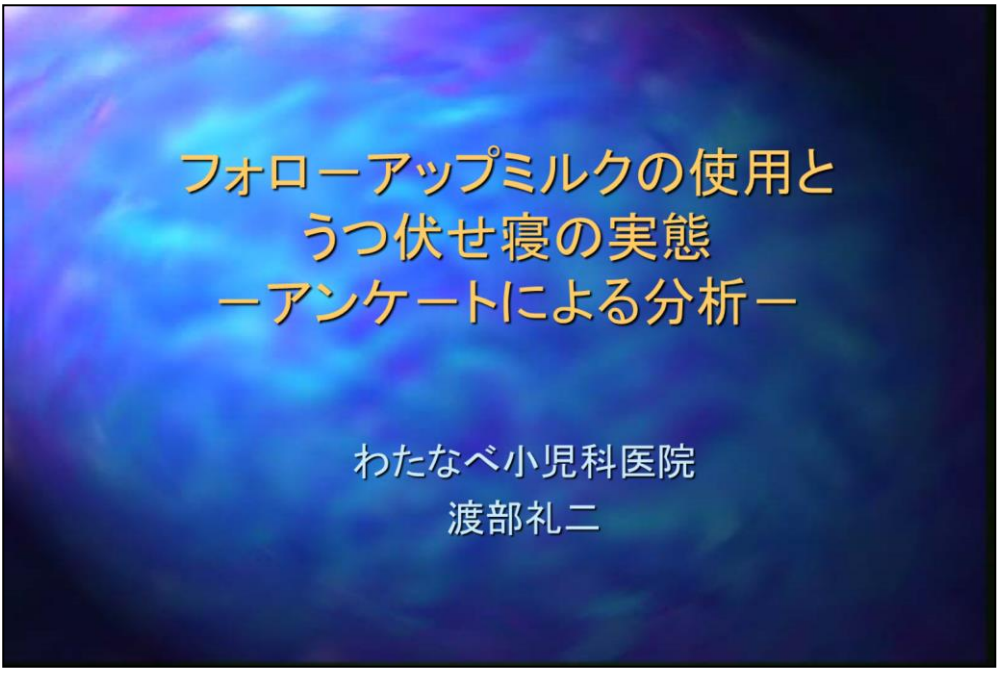


第５１回北陸医学会総会

第２７０回日本小児科学会北陸地方会

平成９年９月７日

於：金沢医科大学

乳児健診をしていると　時々我々小児科医の常識外の所で育児がなされている事があります。今回気づいたフォローアップミルクの早期使用と　うつ伏せ寝に関してアンケートをとり、その分析をしたので報告いたします。

対象は本年１月より６月まで当院に於いて、母親が付き添ってきた１才から２才1ヶ月まで児を対象に重複を避け、無記名で２３７名よりアンケートをとりました。御願いしたほぼ全員から回答が得られました。

離乳期用ミルクの使用開始時期

＜5ヶ月	5ヶ月≦	7ヶ月≦	9ヶ月≦	1歳≦	使用せず
3	10	32	98	9	85

（n＝237）

体格(発育)と離乳期用ミルクの使用の関係

離乳期用ミルクの使用

	小	中～大
使用	26	125
使用せず	9	75

（n＝235）

離乳期用ミルクの早期使用

	小	中～大
＜9ヶ月	7	38
9ヶ月≦	19	87

（n＝151）

最後にＳＩＤＳ家族の会の予防キャンペーンを示します。

食餌と離乳期用ミルクの使用の関係

離乳食の食べ具合

離乳期用ミルクの使用

	不良	普～良
使用	23	126
使用せず	10	75

（n = 234）

離乳期用ミルクの早期使用

	不良	普～良
＜9ヶ月	8	36
9ヶ月≦	15	90

（n = 149）

乳期用ミルクの使用時期と離乳食の進み具合

	1回食	2回食	3回食	
＜9ヶ月	17	25	3	
9ヶ月≦	7	47	53	（n = 152）

離乳期用ミルクを使った動機

（重複を含む）

1	蛋白質や鉄分等が多く含まれるから	65
2	離乳食を始めたから	48
3	上の子も使っていたから	48
4	雑誌、育児書を見て	31
5	値段が安いから	23
6	周囲の人が使っていたので何となく	16
7	周囲の人や友人に勧められ	6
8	医師、助産婦、看護婦、保健婦、薬局で勧められ	5

（ n＝143／152）

フォローアップミルクを使用した理由であります。宣伝や広告で栄養があり、バランスが取れてしかも値段が安いとなれば　高品質の育児用ミルクからフォローアップミルクに替えるのは　消費者、母親の女性心理として当たり前ではないでしょうか。

各種ミルクの蛋白、Fe、Ca濃度

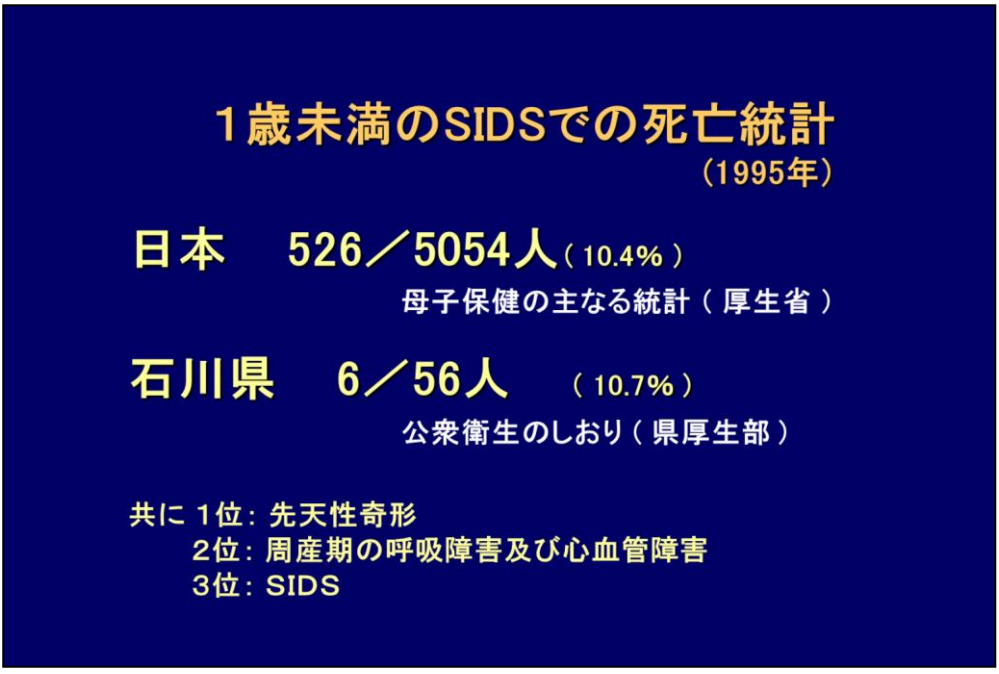
	蛋白（g/dl）		Fe（mg/dl）		Ca（mg/dl）	
	Me社	Mo社	Me社	Mo社	Me社	Mo社
70%調整粉乳	2.48	1.92	1.06	0.71	118	57
特殊調整粉乳	1.87	1.95	0.90	0.75	69	45
調整粉乳	1.71	1.69	0.84	0.78	53	47
離乳期用ミルク	2.38	2.31	1.10	1.00	95	78
牛乳	2.9		0.1		100	
母乳	1.1		0.2		25	

離乳期用ミルクの短所

① 蛋白濃度が高すぎる→腎臓への溶質負荷
② 蛋白質の質の低下（予備消化なし）→アレルギーの問題
③ 銅、亜鉛等が添加されていない

フォローアップミルクは蛋白が高い故に腎臓への溶質負荷がかかり、しかも予備消化がされていません。また、亜鉛、銅なども含まれていません。鉄が多く含まれていると言っても牛乳との比較であります。あくまで離乳後期の牛乳の代わりなのです。

小児科学会は７年前から「フォローアップミルクは９ヶ月を過ぎたから頃から」と呼びかけ、そして厚生省は１昨年「離乳食の基本」を改訂し言及しました。しかしその約１年後の昨年の１１月まで「６ヶ月から」と宣伝していた乳業会社がありました。フォローアップミルクの使用でこのような結果が出たの乳業会社の問題もありますが、それよりも医療最前線の我々の怠慢で育児現場へのアプローチが少なかった為ではないでしょうか。



さて、この数は今年厚生省と石川県が公表した１９９５年（おととし）の統計のものであります。乳児突然死症候群（ＳＩＤＳ）は西欧、オーストラリア程頻度は高くありませんが、日本でも沢山発生しております。１歳未満の乳児死亡では共に先天性奇形、周産期異常の次の第３位であります。日本では日に1.5人石川県ではだいたい2月に1人の割です。

うつ伏せ寝とSIDSに関する報告

Dadies	1985	欧米に比べ香港でSIDSが少ないのは睡眠体位に関係する？
Saternus	1985	SIDSの81%はうつ伏せ寝で、対照児に比較して有意に多い
Beal	1986	うつ伏せ寝をとらせる地域のSIDSの発症頻度は高率
Cameron	1986	SIDSの69%はうつ伏せ寝で発見され、対照乳児のうつ伏せ寝の頻度41%よりも有意に高率であった
deJonge	1989	オランダの197例のSIDS中88%がうつ伏せ寝で発見
Nelson	1989	SIDSの81%がうつ伏せ寝．対照群は49%．有意差あり．
Lee	1989	SIDSの44%がうつ伏せ寝．対照群は7%．（p＜0.004）
Fleming	1990	SIDSではうつ伏せ寝の頻度が有意に高い（p<0.001）
Engelberts	1990	オランダでうつ伏せ寝を止めるキャンペーンによってSIDSの頻度が40%減少した
Dwyer	1991	前方視的研究で、うつ伏せ寝とSIDSの発症は関連がある
Michell	1991	128例のSIDSと503例の対照群と比較し、うつ伏せ寝は有意の危険因子である
Taylor	1991	ニュージーランドでうつ伏せ寝ねを止めるキャンペーンによりうつ伏せ寝は42%から2%へ減少．SIDSの頻度も6．3から1．3へ減少
Wigfield	1992	イギリスでうつ伏せ寝を止めるキャンペーンにより、うつ伏せ寝の頻度が50%減少し、SIDSの頻度も3．5から1．7に減少

（仁志田編 SIDSの手引き（東京医学社）より）

ＳＩＤＳの病態について色々な説がありますが、うつ伏せ寝がその危険因子と言われてから久しく、”うつ伏せ寝とＳＩＤＳ”に関して仁志田らがまとめた表を示しました。うつ伏せ寝から仰向け寝にするという国を挙げてのキャンペーンでＳＩＤＳが減った報告が沢山出ています。この中でうつ伏せ寝の割合の減少によってニュージーランドでは1/５に、オランダやイギリスでは約半分にSIDSが減少しています。この表の他に昨年のPediatricsにはアメリカで２０%減ったと報告されていました。日本においては、１９９４年の厚生省の班報告によるとＳＩＤＳの７９%はうつ伏せ寝で発見されたと報告されております。そこでうつ伏せ寝に関してアンケート致しました。

寝かせ方の設問

常に仰向きに寝かせた（ていた） …… 0点
主に仰向きで、時にうつ伏せで寝かせた（ていた） 1点
主にうつ伏せで、時に仰向きに寝かせた（ていた） 2点
常にうつ伏せで寝かせた（られていた） …… 3点

時期： 産科で、退院後、7ヶ月頃、現在（1～2才）

7ヶ月頃、現在については
寝てからの体位を問う設問を別に設けた

産院、退院後、7ヶ月、現在の寝かせ方をスライドの様な表現で聞きました。なお別に寝込んでからの体位も聞いておりますが、今回の検討から除外致しました。あくまで寝かせ方であります。なお、スライド右の点数は後のスライドに使う点数であります。

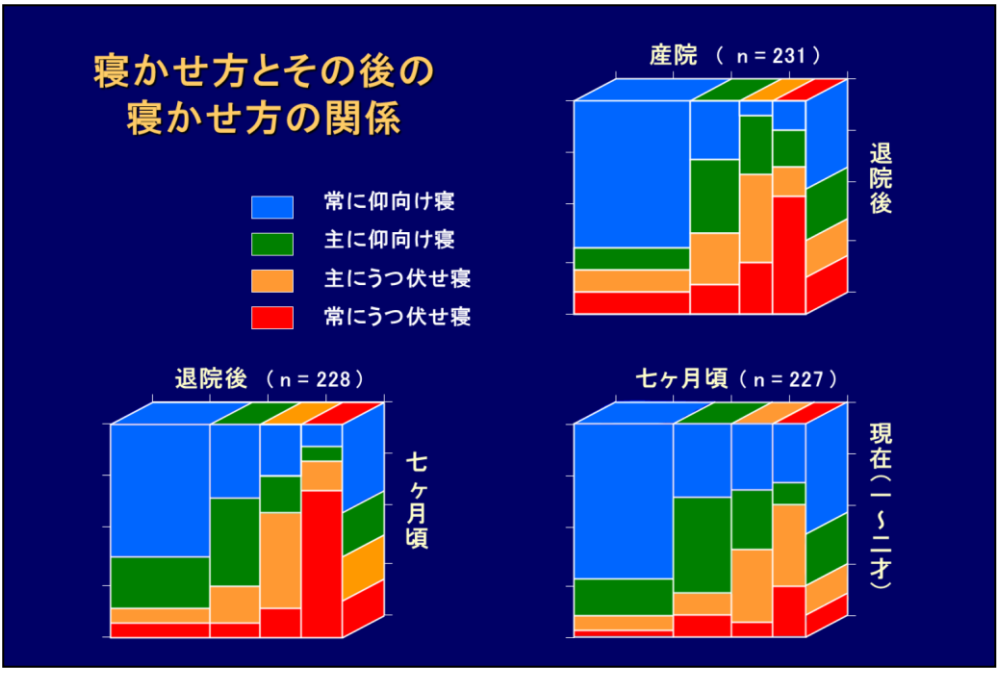
寝かせ方

	7ヶ月まで	現在まで
常に仰向け寝	0 点：60	0 点：45
主に仰向け寝	1-2 点：76	1-3 点：91
主にうつ伏せ寝	3-4 点：49	4-6 点：60
常にうつ伏せ寝	5-6 点：43	7-9 点：31
	（n = 228）	（n = 227）

硬い敷き布団の使用

	使用	使用せず	
主に仰向け寝	69	4	
主にうつ伏せ寝	54	4	
常にうつ伏せ寝	29	2	（n = 162）

現在までに寝てからではなくうつ伏せにして寝かせた事のある人は実に８０％いました。そのほとんどはＳＩＤＳの多い７ヶ月までにうつ伏せ寝にしていました。☆この点数が先程の点数の２回分と３回分の合計点です。また、この中の１０人はうつ伏せ寝の前提である硬い敷布団を使用した事がなく、うつ伏せ寝を主にしていた人でも６人は硬い敷き布団を使用していませんでした。



☆産院での寝方と退院後の寝かせ方を表しています。上の面が産院での寝かせ方。高さが退院後の寝かせ方。これは退院後と７ヶ月頃の相関。これは７ヶ月頃と現在の相関です。どの間を切っても危険率０．００５以下での有意差がありました。この産院での寝かせ方あるいはそういう寝かせ方を見る事が最初の大きなひきがねになっていると思われました。

うつ伏せ寝の動機

（重複を含む）

1	何となくよく寝てくれるから	91
2	産院でうつ伏せ寝だったのでそのまま	62
3	上の子もうつ伏せ寝だったので	41
4	医師や助産婦、看護婦に勧められて	12
5	知人や周囲の人に勧められて	9
6	育児書や雑誌などを読んで	8

（ n = 165／183 ）

うつ伏せ寝にした理由であります。

SIDSがうつ伏せ寝で多い事の知識

（重複を含む）

1 以前から知っていた	79	
2 新聞やテレビで知った	74	
3 育児書や雑誌を読んで	74	
4 知らない	33	
5 健診のときに聞いて知った	19	（n = 232）

うつ伏せ寝とSIDSの危険性の知識の関係

	知っている	知らない	
常に仰向け寝 （0点）	36	9	
主に仰向け寝 （1-3点）	76	15	
主にうつ伏せ寝（4-6点）	56	4	
常にうつ伏せ寝（7-9点）	28	3	（n = 227）

大半の人がうつ伏せ寝はSIDSの危険性がある事を知っていて、うつ伏せ寝で寝かした事のある人でも８８％の人が知っていました。知っていても〝うちの子に限ってそんな事は‥‥〟という意識が働くのでしょうか。尤も調査内容の時期が終了した１歳過ぎの時点でのアンケートなので１歳までのその時に危険性を認識していたかどうか迄は判りません。

SIDS を減らす為に

① 仰向けで育てよう
② 赤ちゃんを一人にしないで
③ 暖めすぎに気をつけよう
④ たばこをやめよう
⑤ できるだけ母乳で育てよう